

北区立滝野川第五小学校(2年目)

【校長】 高草木 政浩 【児童数】 320名 【学級数】 通常12学級 特支2学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 体力向上
 - ・全校で取り組む運動遊びの時間を工夫して継続し、引き続き体力向上につなげる。
 - ・体力調査で平均以下の「立ち幅跳び」への対策⇒運動遊びに動きを取り入れる。
- 健康安全
 - ・「早寝」、「姿勢」への意識の向上を引き続き主体的な行動につなげられるように、児童への言葉掛けと保護者への啓発を行う。アウトメディアの取組を工夫し、継続して行う。
- 食育
 - ・各学年の食育の教科横断的年間計画を作成し、継続的に発展的に学習に取り組む。
 - ・栄養士による食育指導の充実と家庭と連携した取組を工夫して継続する。

【1年目における実態・課題】

- 体力向上
 - ・「外遊びが好き」、「運動が好き」な児童の割合が目標値近くまで増加した。91.7%→94.2%
 - ・体力テストでは前年度平均記録以下であった種目「50m走」、「反復横跳び」、「ソフトボール投げ」の数値が上がり技能の向上が見られた。
- 健康安全
 - ・「早寝」、「すっきり目覚め」、「よい姿勢」への取組の効果が数値に現れていない。スクリーンタイムの増加がマイナス要因の一つと考えられ、改善する必要がある。
- 食育
 - ・「食」への関心の高まりが見られた。88.3%→93.3%家庭との連携、教科横断的な学習をさらに充実させ、「食」に対する興味や視野を広げる。

目標 ・「外遊びが好き」、「運動が好き」(95%) ・「早寝」して「すっきり目覚め」る児童(80%)
・良い姿勢が保てるようになった(70%) ・活動を通じて「食」への関心を高める。

【成果】

- 体力向上
 - ①「外遊びが好き」94%、「体育授業が好き」85%
 - ②「外遊び等体を動かすことが増え体力がついた。」(保護者回答)の効果を成果と上げる保護者が全体の半数以上。
 - ③体力調査では全国・都平均とほぼ等しく平均的なレベルまで上昇した。「20mシャトルラン」(運動を持続する能力)は5年男子を除き平均を上回っている。「立ち幅跳び」(すばやく動き出す能力)が低い。
- 健康安全
 - ①「早寝」「すっきり目覚める」児童は82%。
 - ②「自分の姿勢がよいと思う」児童は57%、「姿勢を良くしようと思う」児童は87%。
- 食育
 - ①「食へ関心がある」児童90%以上。
 - ②家庭と連携した様々な取組が実施できた。

【取組】

- 体力向上⇒①「滝五タイム」の改善・実施：引き続き全校で取り組む運動遊びの時間を工夫して行う。②ゲストティーチャーの活用：外部講師を招聘し運動遊びに動きを取り入れる。③「体力テストがんばりカード」の実施：目標をもって体力調査に取り組むために児童一人一人が目標を設定し振り返る。
- 健康安全⇒①講演会や授業公開の実施：保護者への啓発を強化する。②「さわやかタイム」の改善・実施、「集まれ元気キッズ」の実施：校内での取組を工夫し、継続して行う。③アウトメディアチャレンジの実施。
- 食育⇒①学年ごとの食育学習：教科横断的に計画的に実践する。②給食時の日常的な食育指導を工夫して実施③「我が家の健康レシピ」：家庭と連携した取組。

【取組(詳細)】

○保健体育科における研究授業

- 第1学年「まと当てゲーム」、「宝とり鬼ゲーム」(ゲーム)
- 第2学年「体づくり長縄チャレンジ」(多様な動きをつくる運動遊び)
- 第3学年「健康な生活」(保健)
- 第4学年「フラッグフットボール」、「セストボール」(ゲーム)
- 第5学年「ハードル走」(陸上運動)
- 第6学年「ハンドボール」(ボール運動)



4年フラッグフットボール



1年まと当てゲーム

○中休みの時間に全校で行う「滝五タイム」



輪



一輪車



まと当てボール投げ

○「さわやかタイム」



姿勢ストレッチ

○「我が家の健康レシピ」



親子でクッキング

○給食もりもりWEEK



完食目指して残菜ゼロ!

○教科横断的に行う食育学習



1年とうもろこしを知ろう



2年芋掘り



& スイートポテト作り



5年 真鯛を知ろう

○ゲストティーチャーを活用する健康教育 「する!」「みる!」「知る!」



元メジャーリーガー五十嵐亮太さんによるアスリート体育派遣事業



理学療法士 矢口拓宇さんによる姿勢講演会



3・4年東京ヴェルディサッカー教室



マッスルカーニバル&中国雑技団



学校保健委員会 講師 元ラグビー日本代表 三宅 敬 氏



健康教育推進プロジェクトロゴ